

上演

2



# 長い時間のはじまり

北海道芸術高等学校  
仙台ナイトライトキオノバス

## 楽屋インタビュー

1. 本番を終えて、どんな気分ですか？

先輩が心配だった。お腹痛い。やり切った！

楽しかった！ 頑張りました。

2. 本番中にハプニングありましたか？

照明でトラブりました（3回！）

3. 思い出に残った台詞は？

全部思い出の台詞です（部員1名のカッコイイお言葉）

4. 大会期間中に部活内で流行ったワード・行為は？

ヤバシ、超ヤバシ、やってやんよ！

5. 見てくれたお客さんに向けて、どうぞ

この作品は難しい作品なので見終えて色々な疑問などが残ったと思いますが、どうかその疑問を自分で紐解いてもらえたならなと思います。



## お客さんインタビュー

- キャラクターが魅力的で、セリフも聞き取りやすかった。
- 感情が揺れ動く場面が多く、難しい構成ながらも伏線を上手く回収しながら綺麗にまとまっていた。 ●細かい説明がなくても言い回しや行動で、設定と時代背景が表現されていた。
- ダークな雰囲気、時系列がバラバラという独特な世界観に引き込まれた。 ●少ない部員数で役を回していて、見ている側にもその努力が伝わってきた。

運営委員が観た!  
この劇の感想

- 観劇後、時間についてしみじみ考えさせられた。老女が介護の必要な認知症であったことやドイツのピュアな苦悩など、それぞれが問題を抱えているが時間とともに存在自体が無になっていく。何度も繰り返される始まりと終わり。様々な現代の様子を描く中、繰り返される命の循環を上手く表現していた。劇を通して時間という概念をみている感覚になった。担当者：山川（仙台南）
- セットがシンプルだったが、役者の視線や動きでしっかりとアパートの部屋を認識することができた。繰り返すシーンが印象的で、1回目の夫婦シーンはテンポの良さに笑ったが、2回目は同じセリフでも見え方が全く異なり、驚いた。登場人物のさまざまな立場・視点から物語が進んでいく難しい劇であったが、いろいろな解釈ができる奥深い劇だなと思った。担当者：高橋（塩釜）